

神戸大学医学部附属病院 総合内科

病院 & 部署名（研修プログラム名）・指導医名

神戸大学医学部附属病院 総合内科

役職	氏名	専攻	認定医等資格
プライマリ・ケア医学講座 特命教授	橋本 正良	総合内科	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本老年医学会老年病専門医・指導医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医 米国家庭医療学会特別会員
大学院保健学科研究科 地域保健学領域 健康科学分野 教授	安田 尚史	総合内科 老年医学 糖尿病・免疫	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会糖尿病内科専門医・指導医
講師(診療科長)	金澤 健司	総合内科	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医 日本循環器学会循環器専門医 日本病院総合診療学会認定医
地域医療ネットワーク学 特命助教	荒井 隆志	総合内科	日本内科学会総合内科専門医・指導医
特定助教(外来医長)	西村 光滋	総合内科	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
地域医療ネットワーク学 助教(病棟医長)	森 寛行	総合内科	日本内科学会認定内科医・指導医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医
特定助教	豊國 剛大	総合内科	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医 日本病院総合診療医学会認定医
医員	久保川 修	総合内科	
医員	三好 園子	総合内科	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医
医員	世戸 博之	総合内科	日本内科学会認定内科医 日本病院総合診療医学会認定医
医員	小山 泰司	総合内科	日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医 インフェクションコントロールドクター
医員	平野 靖子	総合内科	

住所・連絡先

〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-2

<mailto:gimkobe@med.kobe-u.ac.jp>

TEL (078)-382-6596

FAX (078)-382-6597

HP : <http://www.med.kobe-u.ac.jp/genmed/>

診療科名

総合内科

研修プログラムの目標としている医師像

私達のミッションは

1. Generalist as Specialist = 「総合診療専門医」のような、専門分野として、総合内科を専門とする医師
2. Specialist as Generalist = 専門分野は持っているが、医師の「基礎体力」ともいうべき「総合内科マインド」を持つ医師
3. Clinician Educator = 医師の「基礎体力」である「教育するPassion」を持つ臨床医

を育てることです。

このミッションの為に「よい医療を提供することが良い医療教育である」を合言葉に、効率的な教育プログラムを提供していると自負しております。

「全人的医療」は、決して特別なものではなく全ての医師にとって必要な、正に「基礎体力」です。

将来は専門診療分野に進むが、「基礎体力」を身につけたい方、もう一度「基礎体力」を鍛えたい方、これらの「基礎体力」を後輩に伝えたい方、一緒に学んでいきませんか。

スタッフ人数

常勤（男性10人 女性2人）

当直

月約2回（当直明け帰宅 原則 否(応相談)）

診療科独自の病床数

10床

研修終了後の主な進路

当院の総合内科指導医、関連機関の総合内科指導医、当院内科専門プログラム、海外留学等。

上記以外にも、当科在籍後、感染症内科、膠原病科等で専門医取得を目指す先輩がおられ、進路に関しては個別に相談しています。当科在籍以後は、当科での経験を活かし、是非後輩を指導できるポジションで頑張りたいと考えています。

勉強会やカンファレンスの開催曜日・時間とその概要

- ①モーニングカンファレンス：月曜日-金曜日 AM8-AM9 入院全症例を対象、プレゼンテーション、診療方針を学ぶ
- ②退院プランニングカンファレンス：毎週木曜日 PM2-PM3 多業種共同で患者中心医療を学ぶ
- ③Case Report（新患カンファレンス）：患者が入院した翌日 PM 4:30 病歴、身体所見から臨床推論を学ぶ
- ④EBM journal club：毎週木曜日 PM5-PM6 EBMフォーマットに沿ってEBMを学ぶ
- ⑤Physical Examination Round：毎週月、木 AM10-AM12 スタッフと共に、実際の患者さんから身体診察を学ぶ

その他：

M and Mカンファレンス：不定期開催

NEJM clinical problem solvingやcase：不定期開催

ACP・MKSAP勉強会：不定期開催

そのほかミニレクチャー 県内他院との院外カンファレンス 大リーガー医カンファレンスなど多数。

具体的な研修内容紹介

①外来での教育システム

専修医、医員は必修、時期においては2年目研修医から参加頂きます。

週に一度を原則として診察ブースを担当し、主に初診症例、コンサルテーション症例を対象に診察、初期対応を行います。

診察時は上級医が常にバックアップ体制をとっており、同日中に症例についての振り返りを行い、鑑別診断の考え方、初期対応について学びます。

②病棟での教育システム

指導医、医員、研修医からなる主治医団チームによる診療を行います。

時期によって6年次、5年次医学生も各チームに配属されますので、「屋根瓦方式」の教育をチーム内で行います。ベッドサイドではiPadを用い、UpToDateや総合内科独自のデジタルアーカイブにリアルタイムでアクセスしながら学ぶ体制を整えています。デジタルアーカイブには当科で行われたLecture、EBMカンファレンス、話題になったTopicのま

とめ、Keyとなる文献資料が含まれており、院内のどこからでもアクセス可能です。病院全体で、毎週水曜日に研修医ミーティングとして、研修医に必須の内容のショートレクチャーが開催されます。2年目以後は、当科内及び病院内でのレクチャーを担当頂き、教育手法についても学んで頂きます。

その他自由記載

外来では分野を問わず多岐にわたる疾患の診断を学べます。

例) 多発性骨髄腫、アレルギー性肉芽腫性血管炎、側頭動脈炎、慢性関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、RS 3 PE、MCTD、HIV、糞線虫、posterior reversible encephalopathy syndrome (PRES)、スイト病、ACTH単独欠損症、キャッスルマン病、脳腫瘍、精巣腫瘍、血管浮腫、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、プリオン病、好酸球性血管浮腫、パーキンソン病、PFAPA、梅毒、ベル麻痺など多数